

生活科 移行期の 指導計画作成資料



信教版教科書編集にあたって大切にしていること

- 「人間愛」の育成を基本理念においた編集
- 地域に根ざした教材と直接体験を重視した単元の構成
- 豊かな生活のドラマを作り出す単元の展開

生活科新学習指導要領改訂のポイント

1 幼児期から学校教育全体への橋渡しを担う 生活科

- ① スタートカリキュラムの編成
幼児教育と小1との接続であるとともに、学校教育全体で取り組むものとして扱う。
- ② 低学年は生活科を核とした合科的・他教科関連的な指導の一層の推進
- ③ 中学年の各教科等への接続を明確にして「見方・考え方」のつながりを検討

2 体験的な学習を通して育成する資質・能力の見直し

- ① 目標の見直し
活動を通し（見つける 比べる 例える 試す 見通す 工夫する）
気づき（必要な習慣・技能を身につける）
考え 表現する（交流することで共有され気づきの質が高まる）
学んだり 生活を豊かにしようとする（できることが増え、活動範囲が広がる）
- ② 内容項目の見直し
体験的な学習を通してどのような思考・判断・表現力の育成を目指すのかを具体的にする。

3 主体的・対話的・深い学びの実現を図る授業改善

自身の学びや変容を自覚できる場面
対話によって考えを深めたり広げたりする場面
児童が考える場面と教師が教える場面 } をどのように組み立てるか。

4 その他

- ① 継続的な飼育・栽培
- ② 情報機器の活用
- ③ 幼児・高齢者・障害のある児童生徒など多様な人々との触れ合い

平成30・31年度 移行期の指導計画参考資料 生活科

※年間計画の作成にあたっては、全単元を網羅的に扱うのではなく、2年間で学習指導要領の9つの内容を扱うことを前提に、地域、学校、学級の実態を考慮して学習活動を設定してください。
 ※内容項目については、中心になるものを**太ゴシック**で表しています。教師が子どもとともに学習をつくっていく立場から、単元によっては下に示す内容以外の組み合わせも考えられます。
 ※内容項目(8)交流・伝え合いに特化した単元はないので、どこで組み合わせるのかについては、児童・地域の実態に合わせて決め出してください。

せい か つ 上 あ お ぞ い	単元名	目 標	内 容	願う子どもの姿	移行への対応	月
	○いってきます	(1)	(1)	幼保小の円滑な連携が図られるよう、遊びを中核としながら学校生活での活動範囲や視野を広げていく。地域の人に見守られながらの登下校、遊びや学校探検などを通じた上級生や教職員との出会い、施設設備等の認知を通して、自らの手で生活圏を広げ、楽しく安心な学校生活を送れるようになる。	学校生活全体への導入期として、幼児期の身につけた力で安心して入学できるようにするとともに遊びを中心とした活動から各科・関連的に教科の学習に移行してけるように、子どもの興味関心を大事に工夫したカリキュラムを創っていく。学校や通学路での人とのかかわりを大切に。	4 月 〜 7 月
	みんな ともち	(1)	(1), (4), (8)	学校の行き帰りに見つけたものや、朝の会の話題などをきっかけに、春の野に繰り返し出かけ、からごと春の自然現象とかかわり春の恵みを食したりしながら、自然に対する感受性を磨いていく。	この内容は(6)自然を利用した遊びや(7)動植物の飼育栽培(8)交流・伝え合いとの関連も図り、年間を通して扱う。	
	はるが いっぱい※1	(2), (3), (4)	(5), (6)	いわれややり方を意欲的に調べたり、端午の節句にかかわる活動をしったりして、節句を祝ってくれる家族の気持ちや大事にされている自分を感じることができる。	季節や地域の行事を大事に取り上げていく。学級内だけでなく地域の様子にも目を向けていく。	
	たんごの せつ※2	(3)	(5)	2年生から贈られたアサガオの種をきっかけに、自分たちの手でつくった鉢(土壌)に種をまき、発芽から開花までの成長を見続けるなかで、アサガオへの親しみを持ち、植物の命に触れていく。	一人で長期の栽培活動を行うための興味・関心を抱くような工夫をする。また 記録としてタブレットの活用なども考えていく。	
	いきものと いっしょ①	(2), (4)	(7)	ウサギなどの生き物と直接かかわることを通じて、それらも自分たちと同じように生命をもっていることを実感し、生命あるものへの慈しみの気持ちを深めていく。	児童や地域の実態によって飼育する動物を考えていくが長期に渡る継続的な活動を意図していきたい。	
	たなばた	(3), (4)	(5), (8)	七夕のいわれを知ったり、星の世界に浸ったりして、自分たちの願いをもって楽しい「たなばた」にしていく。	※2 に同じ。	
	まぶしい なつ	(2), (3)	(1), (2), (5), (6)	夏の様々な自然からかごとと思切りぶつかり、夏ならではの体験を重ねていくなかで、友だちや自然とのかかわりを深めていく。	※1 に同じ。	
	ひとつぶの たねから	(1), (2), (4)	(5), (6), (7)	アサガオの花を咲かせ、種の数を数えたり、観察したり、花や葉の特性を生かした叩き出しや草木染めの作品を制作するなかで、一粒の種のもつ生命に心を寄せるとともに日常生活を工夫して豊かにしていく。	アサガオとのかかわりのなかに生まれる自分自身への気づきや成長が捉えられるよう表現活動も考えていく。	
	いきものと いっしょ②	(2), (4)	(7)	生き物の成長に伴う変化に応じて、それにかかわる生活をよりよくしていく。ここでは、特に成長に伴う様々な変化に気づくとともに、みんなで協力して、生き物にとって具合のよい小屋を作るなど、よりよい世話を求めている。	施設・環境・繁殖などについて配慮する必要がある。地域の専門家・獣医師・保護者と連携して取り組んでいく。	
おつきみ	(3), (4)	(5)	豊作への感謝の気持ちをもち秋を味わうとともに、お月見のいわれ調べやだんご作り、お月見にあった教室の飾りつけなど、自分たちで季節の行事を進めていこうとする。	※2 に同じ。行事のいわれ調べなどにタブレットの活用も考えられる。		
あきが いっぱい	(2), (4)	(5), (6)	秋の野に繰り返し出かけ、秋の自然とかかわりを深め、落ち葉や木の実などの感触を味わったり造形遊びやおもちゃづくりを楽しんだりするなど、情感豊かに表現していく。	※1 に同じ。		
みのりの あき	(2), (4)	(5), (7)	実りの秋を迎えて、収穫したものをみんなで食して味わうとともに、身近なところにも多くの収穫物があることを知り、収穫のよろこびを味わう。	学校、家庭、地域での秋の実りを感じられるようにしていく。		
ふゆも げんき	(1), (2), (3), (4)	(1), (2), (3), (5), (6)	寒さも忘れ雪や氷と思切り遊ぶなかで、冬ならではの楽しみを味わったり、お正月の伝承遊びや季節の行事を行ったりしながら、春への期待をふくらめていく。	※1 に同じ。		
はしれ はしれ	(2)	(6)	身の回りにある材料を使って走る車を作るなかで、より真っ直ぐに、より遠くまでという願いをもち、試しては作ることを繰り返し、車輪の位置や付け方などを工夫していく。	児童の発達段階、実態を考慮し『てづくりおもちゃ』と入れ替えるなど試す・工夫する場が位置づくようにする。		
ひなまつり	(3), (4)	(5), (8)	いわれややり方を意欲的に調べたり、ひな祭りにかかわる一連の活動をしったりして、ひな祭りを祝ってくれる家族の気持ち、大事にされている自分や自分自身の成長を感じることができる。	※2 に同じ。		
わたしたちの 一ねんかん	(3), (4)	(2), (9)	できるようになったことなどわかりやすい成長だけでなく、目に見えない精神的成長までも含めて一年間を振り返ることで、自分自身に自信や希望をもつとともに、友や上級生、家族に感謝の気持ちをもつ。	一年間の生活科の記録を見返したり、来入児との交流などから感じられる自らの成長を大事にしていく。家庭や地域からの伝え返しの機会を設定するなどの工夫も必要。		

せい か つ 下 そ よ か ぜ	単元名	目 標	内 容	願う子どもの姿	移行への対応	月
	○きょうから 二年生	(1)	(1), (2)	上級生になったよこびを胸に登校し、新しい友との出会いや教室づくりから2年生をスタートさせていく。	自分自身の成長への気づきができるようにしていく。	4 月 〜 7 月
	二年生の 春※3	(1), (2), (3), (4)	(1), (5), (7), (9)	いつもの場所に出かけながら、1年生とは違う意欲的・自主的な姿でよりよい学級をつくっていくとする。		
	れんげえんそく	(1), (3), (4)	(4), (3), (8)	自分たちの願いの実現のために、目的地までの行き方や手段を調べ、駅へ下見に行ったり持ち物を考えたりする。さらに自分たちで家庭にお知らせを出すなど準備を整えて当日を迎え、目的を果たせたことをよろこび合う。	学級で進めてきた活動から目的地が決め出されてくる場合、定期的に『わたしたちが すむ 町』と入れ替えていくことも考えられる。公共物や公共施設の役割とともに支えている人々にも気づくようにしていく。	
	いきものと いっしょ③	(2), (4)	(7), (9)	命の誕生や別れなど、生き物とのくらしを重ねていくなかで、より一層対象への思いを深め、ため込んでいく子どもたち。生き物と共に過ごした日々を表現活動を通して振り返り、共に育ってきた自分自身の成長を実感していく。	2年生になって、新たな生活を始めたばかりの時期であるので、振り返り自分自身への気づきや成長を実感していく小単元の時期を考えていきたい。	
	いっぱい みのも	(2), (4)	(7), (8), (5)	大豆が動物の食べ物になることや、様々な加工され日常の食生活に欠かすことのできない存在であることに注目して取り組む大豆栽培学習。成長の観察や地域の方への聞き取り、鳥虫害への対応など、課題を乗り越えていこうとする。	飼育・栽培単元でのかかわり方を通して自分自身への気づきや成長を振り返ることができるよう他教科と関連した表現活動を大事にしていく。	
	かがやく 夏※4	(1), (2), (4)	(5), (7)	音を通して夏の風物詩を感じ取りながら、日々のくらしや町の様子への視野を広げて自らの生活を豊かにしていく。また、地域の川で水遊びをしたり生き物を捕ったりする活動を通して、川と生き物とのかかわりを深め、ふるさとへの愛着をもつ。	※3, ※5と合わせて季節によって暮らしの様子も変化することに気づいていけるようにする。	
	すすめ すいすい号	(2)	(6)	水遊びをきっかけに、自分たちが乗れる舟を作りたいと願い、その実現に向けて材料を集め、作っては試す活動を繰り返しながら制作していく。出航のときをみんなで迎え、達成感や冒険心を味わう。	材料を集めや片づけなどで、保護者や地域への協力依頼や環境への配慮などが求められる。	
	いっぱい みのも	(2), (4)	(7), (8), (5)	自分たちが育ててきた大豆を収穫し、加工して食すなかで、収穫のよろこびを実感していく。	自分や学級の成長に気づくとともに大地や支えてくれた人々へも感謝する気持ちを育てたい。	
	わたしたちが すむ 町	(1), (4)	(3), (4), (8)	自分たちの生活は、地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかかわっていることがわかり、人々と双方のかかわりをもって接することで、地域の人々や地域に親しみや愛着をもっていく。	地域の人々や場所と実際にかかわり、マナーを守って気持ちよく接したり、使ったりできるようにしていく。	
冬と お正月※5	(1), (4)	(2), (3), (5)	お菜洗などの冬支度をきっかけにして、冬やお正月にまつわる行事を行い、伝統のなかに存在する人々の知恵や心に触れ、生活を豊かにしていく。	※3, ※4 に同じ。		
てづくりおもちゃ	(2)	(6)	いくつかの手作りおもちゃを示し、自分の興味に合わせて選択し作り上げていく。	児童の発達段階、実態を考慮し『はしれ はしれ』と入れ替えるなど試す・工夫する場が位置づくようにする。		
わたしと かぞく	(1), (3)	(2), (9)	家庭の話題から、自分と家族のつながりを考えたり家族の思いに触れたりして、家族のかけがえのない一人として生活していこうとする。	家庭での実践が難しい場合、実践の場を学校に求めるなどの工夫が必要。伝え合う場を設定し、家庭生活を見返すことができるようにする。		
大きく なった わたし	(3)	(2), (9)	小さい頃を振り返ったり赤ちゃんを抱っこする体験をしたりするなかで、自分の成長には多くの人々の支えがあったことを知り、感謝とよろこびをもって生活しようとする。	家族、親戚、園の先生などの話や幼い頃使った物、写真や作品を手がかりに振り返り、自分の成長を実感できるようにする。		
生活科の 二年間	(3)	(2), (3), (5), (7), (9)	二年間の学級の歩みや学習記録を振り返り、友や家族に支えられながら仲間とともに成長できたことを実感していく。二年間のなかで見つけた自分のよさや可能性を生かし、3年生の生活に夢と希望を抱く。	生活科で身につけた力で3年生からの生活に意欲的に向かえるよう、この単元だけでなく、あらゆる場面で認めたり励ましたりしていけるようにする。		

単元展開例 1

うれしいないちねんせい

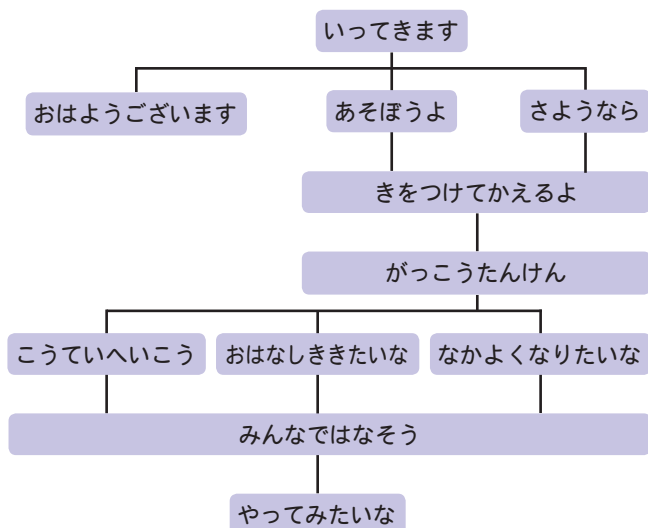
1年 4月 10～12時間（特活・国語・算数・体育・音楽・図工・道徳）

目 標

- 学校の施設や学校を支えている人々・友だちに関心を持ち、学校探検や校庭・まわりの散歩をしたり、かかわったりすることを通して、学校生活に安心感をもって楽しく学習していこうとする意欲をもつことができるようにする。
- 通学路の安全を守っている施設や人々に関心を持ち、登下校が多くの人々に支えられていることに気づき感謝の気持ちをもつと同時に安全な登下校をしようとする事ができる。

〔目標（1）内容（1）〕

【単元スケッチ】



園時代と同じようにできることに安心感をもつと同時に保護者と離れての登校や広い施設・先生や友だちの数の多さに不安感も抱える入学期の児童。

体育でのごっこ遊び・音楽での歌遊び・仲間集めゲームや口答詩など遊びを中心にしながら学習へつないでいくことで学校が安心できる場として実感され、『学校って楽しいよ』『あしたも来たいな』という意欲へつながる。

校内や校外を巡るなかで、児童がどのようなことに興味を示し、またどんな物を教室に持ち込んでくるかなどを捉え、お互いの気づきを話し合う場を設けながら学級として取り組みたい活動を決め出していく。



単元展開例 2

わたしたちがすむ町

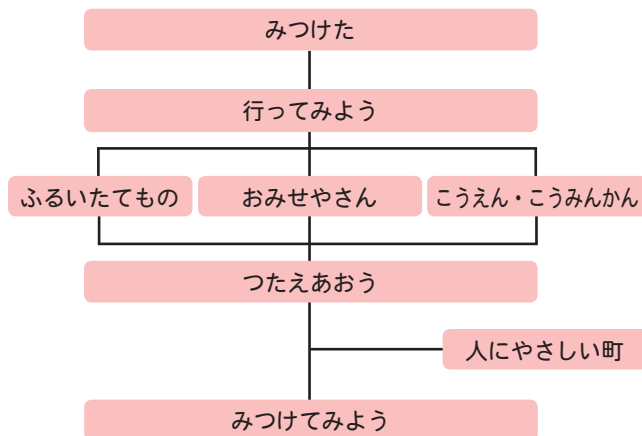
2年 5月 10～12時間

目 標

- 地域で生活したり働いている人と触れあうことを通して、それらの人々に親しみや愛着をもつことができる。
- 公共物や公共施設を使用し、みんなで使うことやそれらを支えている人が居ることがわかり、大切に使うことができる。
- 身近な人々と伝え合う活動を行い、かかわる楽しさがわかり、進んで交流することができる。

〔目標（4）内容（3）、（4）、（8）〕

【単元スケッチ】



いつもの場所をさらに上った丘から見下ろした町の景色。自分の家・友だちの家を探すとともに目印になるような公民館や神社、また、お気に入りの店などを見つけ、みんなで行ってみたいと願う。

その際、電話・ファックスなどを使って計画を立て、約束を決めて実際に出かけてみる。そして、出会った人の話を聞いたり、もの・ことについて調べたりして、地域の場所や人が自分たちの生活を支えたり、楽しませてくれたりしていることがわかるようになる。

また、写真やビデオを撮ったり、紙芝居をつくったり、実際に一緒に活動したりすることを通して発表会をもち、感想を伝え返してもらおうなど、自分自身への気づきももてるようにする。

